

# 第 I 部 調査結果の概要

## 1 平成 22 年の概況

～ 生産指数は、リーマン・ショック前の 85%程度の水準まで回復 ～

- 鉱工業指数は、リーマン・ショックの影響による前年の大幅な落ち込みからの反動で、現行基準で比較可能な平成 15 年以降で最大の上昇率（生産 90.7〔前年比 15.4%上昇〕、出荷 96.3〔前年比 14.8%上昇〕）となった。
- 四半期でみると、生産・出荷ともに、平成 21 年 I 期を底として、平成 22 年 I 期まで右肩上がりに回復したが、II 期以降はほぼ横ばいとなった。

《生産》I 期・93.2、II 期・91.7、III 期・87.4、IV 期・91.3

《出荷》I 期・97.8、II 期・97.2、III 期・93.8、IV 期・97.0

### (1) 鉱工業生産指数

鉱工業生産指数は、90.7(前年比 15.4%上昇)。3 年ぶりに前年を上回り、前年比は、現行基準で比較可能な平成 15 年以降、最大の上昇率となった(図 1)。業種別にみると、鉄鋼業、輸送機械工業、一般機械工業など、12 業種が上昇し、電子部品・デバイス工業、食料品・たばこ工業、金属製品工業など 7 業種が低下した(図 2)。

### (2) 鉱工業出荷指数

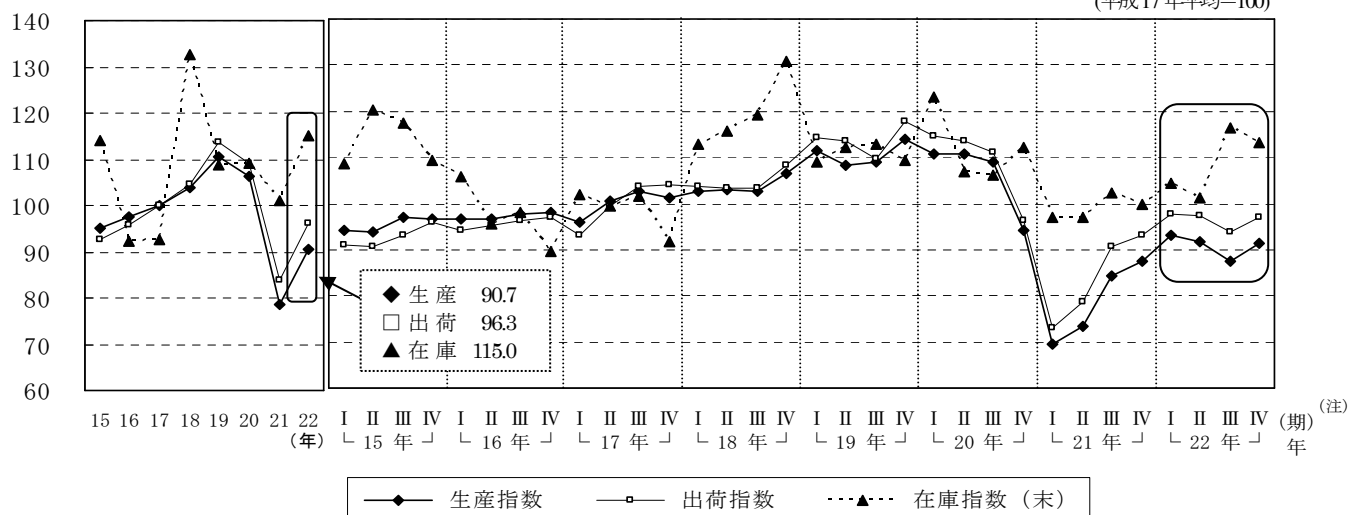
鉱工業出荷指数は、96.3(前年比 14.8%上昇)。3 年ぶりに前年を上回り、前年比は、現行基準で比較可能な平成 15 年以降、最大の上昇率となった(図 1)。業種別にみると、輸送機械工業、鉄鋼業、化学工業など 13 業種が上昇し、金属製品工業、その他製品工業、食料品・たばこ工業など 6 業種が低下した。

### (3) 鉱工業在庫指数 (末)

鉱工業在庫指数(期末在庫)は、115.0(前年比 14.0%上昇)。2 年ぶりに前年を上回った(図 1)。業種別にみると、輸送機械工業、化学工業、金属製品工業など 9 業種が上昇し、鉄鋼業、電気機械工業(総合)、繊維工業など 9 業種が低下した。

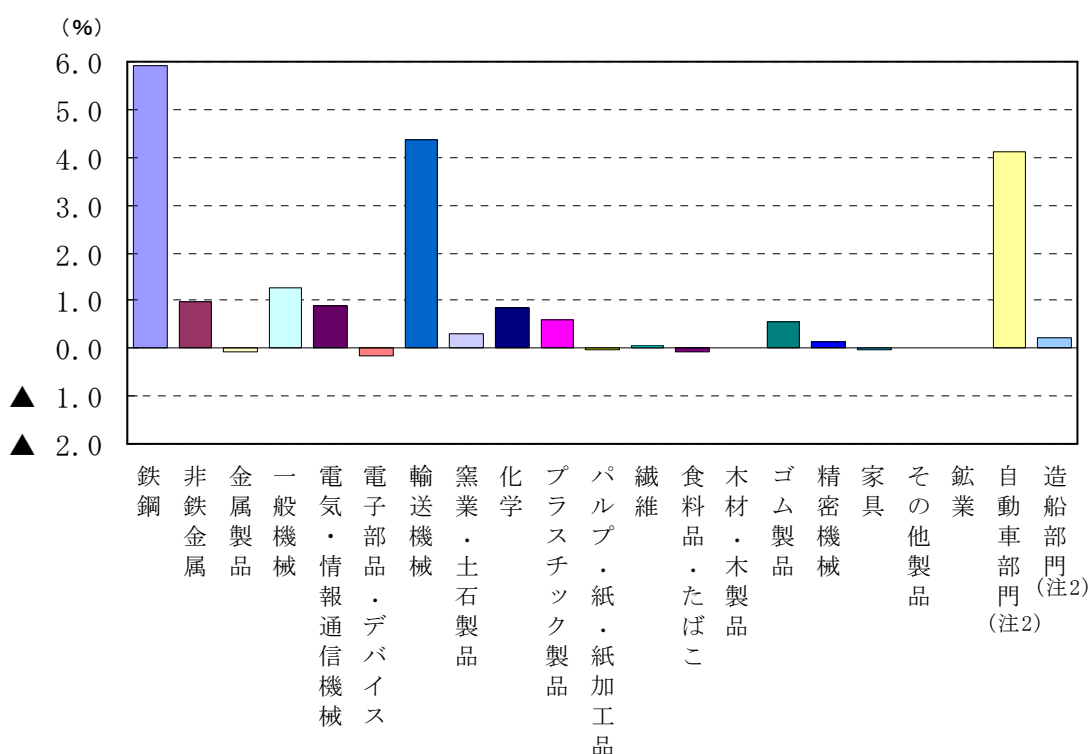
図 1 鉱工業指数の推移 (年は原指数、四半期は季節調整済指数)

(平成 17 年平均=100)



(注) I 期: 1~3 月, II 期: 4~6 月, III 期: 7~9 月, IV 期: 10~12 月

図2 平成22年における鉱工業生産指数の前年比に対する業種別寄与度<sup>(注1)</sup>



(注1) 寄与度とは、鉱工業指数全体の上昇・低下に対し、各業種の上昇・低下が、どの程度影響を与えているかを示したものである。

(注2) 自動車部門及び造船部門については、輸送機械を分けたものである。

## 2 生産の業種別動向（寄与度順）

### (1) 前年比が上昇した主な業種

上昇した主な業種	前年比	寄与度	上昇した主な品目
鉄鋼業	24.7%	5.9%	鋼帯, 特殊鋼熱間圧延鋼材, 鋼半製品
輸送機械工業	25.1%	4.4%	普通自動車, ガソリンエンジン, シヤシー及び車体部品
一般機械工業	11.3%	1.3%	シヨベル系掘削機, 半導体製造装置, プラスチック加工機械

### (2) 前年比が低下した主な業種

低下した主な業種	前年比	寄与度	低下した主な品目
電子部品・デバイス工業	▲1.4%	▲0.1%	半導体集積回路, モス型半導体集積回路(マイコン), モス型半導体集積回路(ロジック)
食料品・たばこ工業	▲1.5%	▲0.1%	飲用牛乳, 清酒, 清涼し好飲料
金属製品工業	▲1.7%	▲0.1%	橋りょう, 食缶, グレーチング

### 3 関連業種別生産指数の推移

**機械関連業種、素材関連業種は前年から大幅な上昇**

業種別の生産指数を、機械関連業種、素材関連業種、生活関連業種の3関連業種に分けて分析すると<sup>(注)</sup>、平成22年は、機械関連業種、素材関連業種で3年ぶりに上昇、生活関連業種は、5年連続の低下となった。生活関連業種以外は、前年の記録的な落ち込みから回復傾向にある(図3、4)。

図3 鉱工業生産指数の前年比の推移

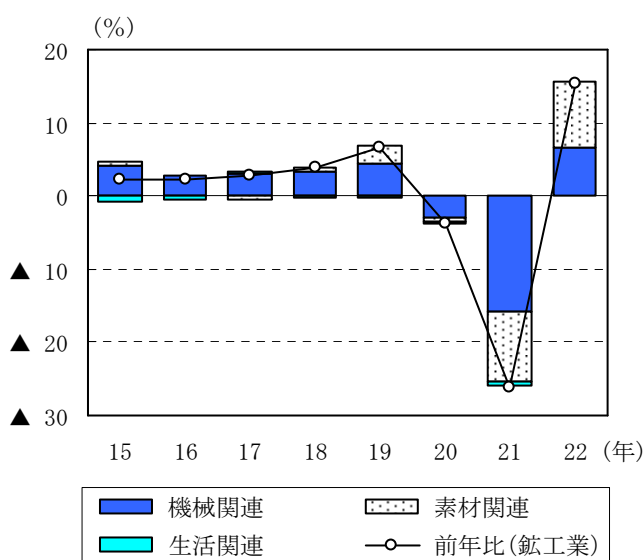
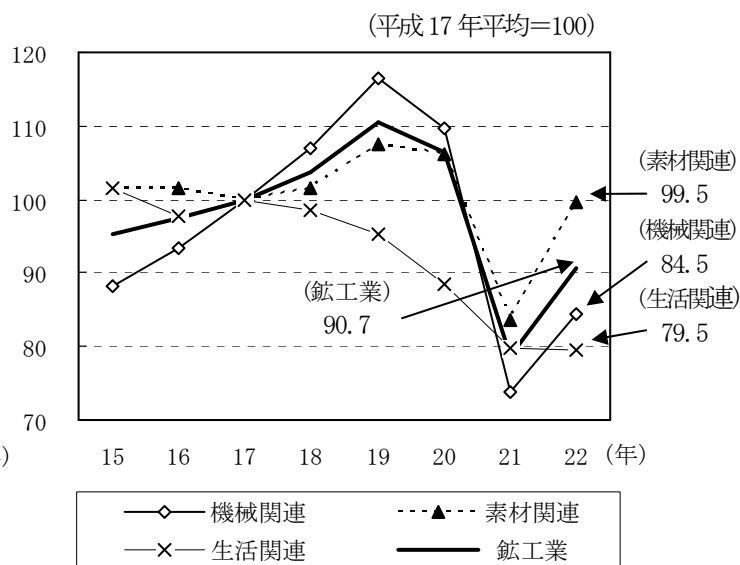


図4 関連業種別生産指数の推移



(注) 各関連業種の分類は、次のとおりとした。

機械関連業種：一般機械工業、電気・情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業、輸送機械工業、精密機械工業の5業種

素材関連業種：鉄鋼業、非鉄金属工業、金属製品工業、窯業・土石製品工業、化学工業、プラスチック製品工業、パルプ・紙・紙加工品工業、木材・木製品工業、ゴム製品工業の9業種

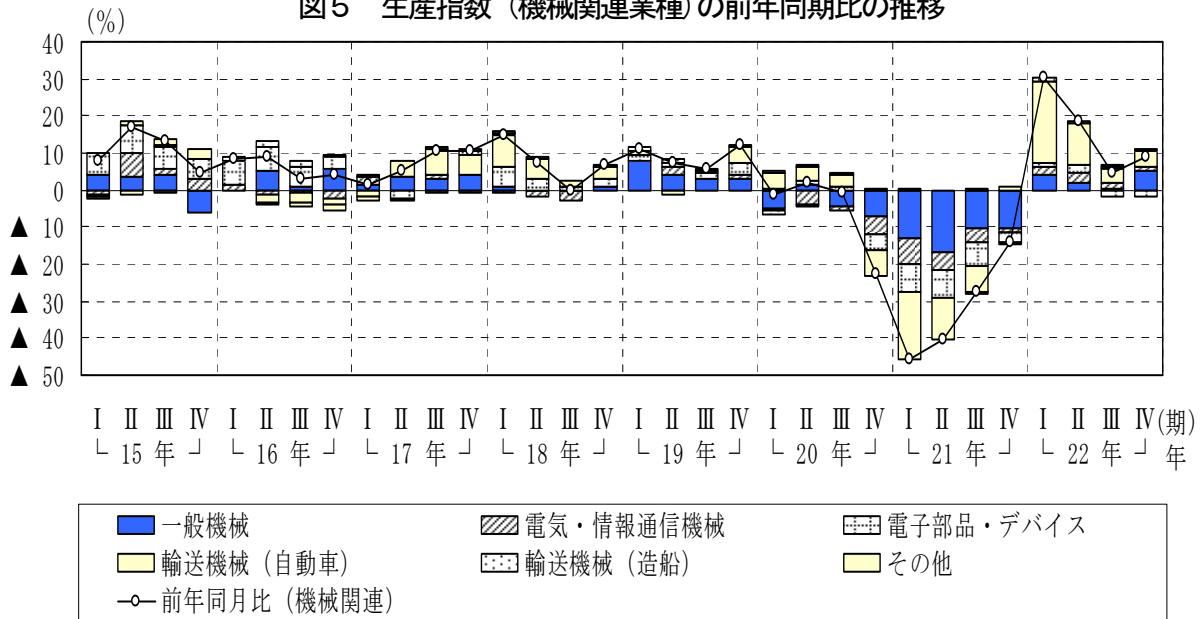
生活関連業種：繊維工業、食料品・たばこ工業、家具工業、その他製品工業の4業種

#### (1) 機械関連業種の生産指数の推移

**機械関連業種の生産指数は、前年の反動で大幅な上昇**

機械関連業種の生産指数は、前年の記録的な落ち込みからの反動で、平成22年I期は、全ての業種で上昇し、記録的な上昇(前年同期比30.4%上昇)となった。その後、II期以降もプラスで推移した(図5)。

図5 生産指数（機械関連業種）の前年同期比の推移



① 一般機械工業

一般機械工業の生産指数は、65.0(前年比11.3%上昇)。一般用蒸気タービンなどが低下したものの、ショベル系掘削機、半導体製造装置などが上昇に大きく寄与した。四半期ごとにみると、平成22年I期は7期ぶりに前年同期を上回り、その後、平成22年IV期まで、4期連続で前年同期を上回った。

② 電気・情報通信機械工業

電気・情報通信機械工業は、58.0(前年比19.6%上昇)。工業用計測制御機器などが低下したものの、低圧遮断器、自動車用電気照明器具などが上昇に寄与した。四半期ごとにみると、平成22年I期は8期ぶりに前年同期を上回り、その後、平成22年IV期まで、4期連続で前年同期を上回った。

③ 電子部品・デバイス工業

電子部品・デバイス工業は、83.3(前年比▲1.4%低下)。液晶用カラーフィルターなどが上昇したものの、半導体集積回路、モス型半導体集積回路(マイコン)などが低下に寄与した。四半期ごとにみると、平成22年I期は6期ぶりに前年同期を上回り、II期もプラスとなったものの、III期以降はマイナスに転じた。

④ 輸送機械工業(自動車部門)

輸送機械工業(自動車部門)は、113.7(前年比30.2%上昇)。小型トラックなどが低下したものの、普通自動車、ガソリンエンジンなどが上昇に寄与した。四半期ごとにみると、前年の大幅な落ち込みからの反動で、平成22年I期(前年同期比93.3%上昇)は現行基準で比較可能な平成15年以降で最大、II期(前年同期比37.7%上昇)は2番目に高い上昇率となった。その後III期以降もプラスで推移した。

### ⑤ 輸送機械工業(造船部門)

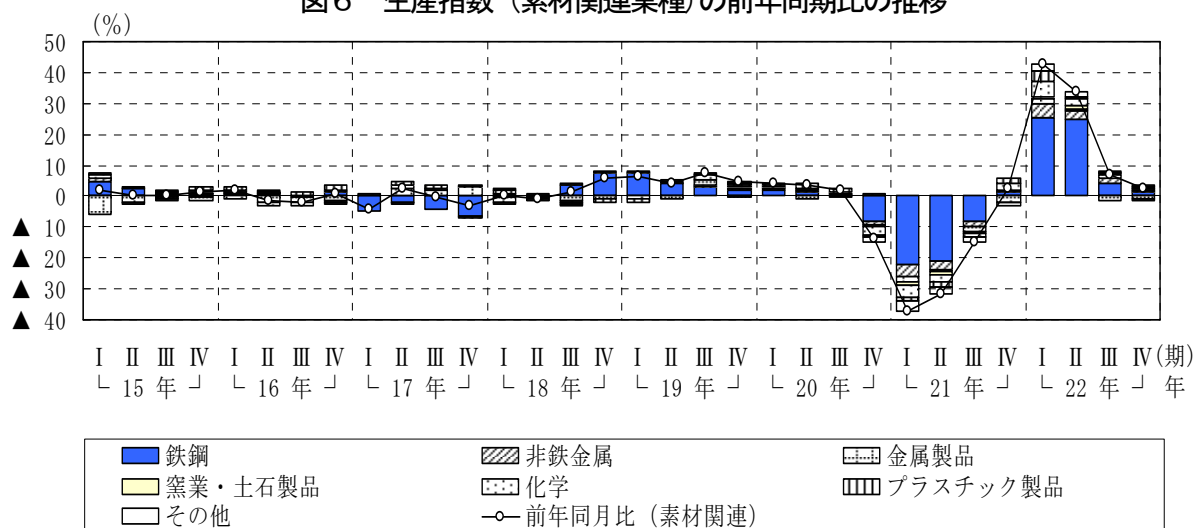
輸送機械工業(造船部門)は、121.9(前年比6.3%上昇)。船用蒸気タービンは低下したものの、鋼船新造などが上昇に寄与した。四半期ごとにみると、他業種と比べて大幅な変動はなく推移している。

## (2) 素材関連業種の生産指数の推移

素材関連業種の生産指数は、リーマン・ショック前の94%程度の水準まで回復

素材関連業種の生産指数は、前年の大幅な落ち込みからの反動で平成22年I期(前年同期比42.6%上昇)は現行基準で比較可能な平成15年以降で最大、II期(前年同期比33.8%上昇)も2番目に高い上昇率となった。その後はリーマン・ショック前の94%程度の水準まで回復した(図6)。

図6 生産指数(素材関連業種)の前年同期比の推移



### ① 鉄鋼業

鉄鋼業の生産指数は、105.0(前年比24.7%上昇)。大形形鋼などが低下したものの、鋼帯、特殊鋼熱間圧延鋼材などが上昇に寄与した。四半期ごとにみると、前年の大幅な落ち込みからの反動で、平成22年I期(前年同期比51.4%上昇)は現行基準で比較可能な平成15年以降で2番目、II期(前年同期比52.2%上昇)は最大の上昇率となった。

### ② 金属製品工業

金属製品工業は、80.0(前年比▲1.7%低下)。飲料用アルミニウム缶などが上昇したものの、橋りょう、食缶などが低下に寄与した。四半期ごとにみると、平成22年I期は5期ぶりに前年同期を上回り、II期もプラスで推移したが、III期以降はマイナスに転じた。

### ③ 化学工業

化学工業は、95.7(前年比20.4%上昇)。医薬品などが低下したものの、メタクリル酸エステル・モノマー、アクリロニトリルなどが上昇に寄与した。四半期ごとにみると、平成21年IV期から平成22年III期まで4期連続で前年同期を上回っていたが、IV期は5期ぶりにマイナスに転じた。

#### ④ プラスチック製品工業

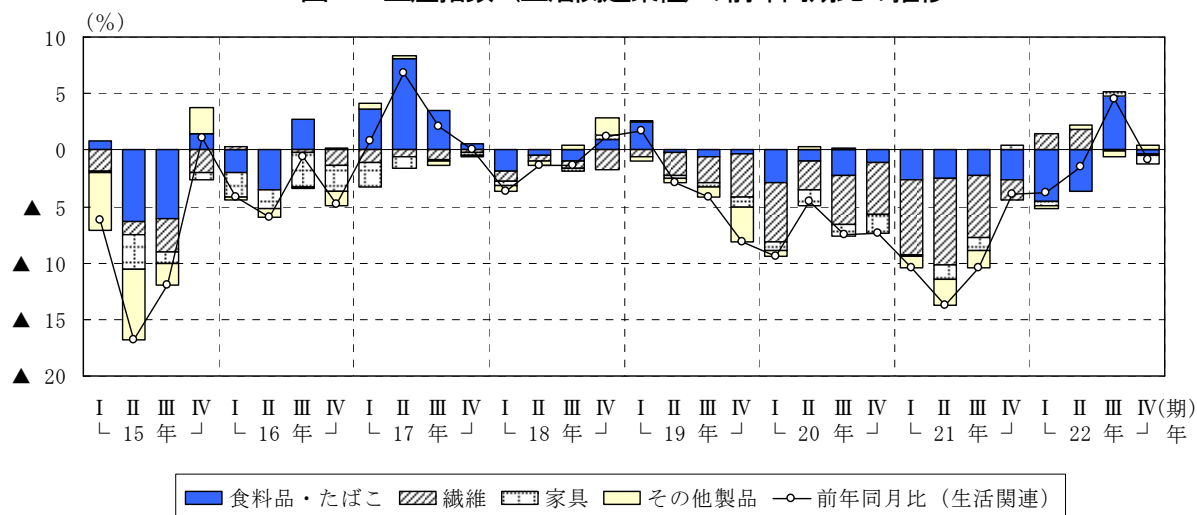
プラスチック製品工業は、109.1(前年比9.8%上昇)。パイプなどが低下したものの、光学フィルム、継手などが上昇に寄与した。四半期ごとにみると、平成21年Ⅲ期から平成22年Ⅳ期まで6期連続で前年同期を上回った。

### (3) 生活関連業種の生産指数の推移

生活関連業種の平成22年Ⅲ期の生産指数は、14期ぶりにプラス

生活関連業種の生産指数は、平成19年Ⅱ期以降、マイナスで推移していたが、平成21年Ⅲ期以降、徐々に低下率が縮小し、平成22年Ⅲ期は、14期ぶりに前年同期を上回った。しかし、Ⅳ期には再びマイナスに転じた(図7)。

図7 生産指数(生活関連業種)の前年同期比の推移



#### ① 食料品・たばこ工業

食料品・たばこ工業の生産指数は、91.1(前年比▲1.5%低下)。乳飲料などが上昇したものの、飲用牛乳、清酒などが低下に寄与した。四半期ごとにみると、平成22年Ⅲ期は、平成19年Ⅰ期以来14期ぶりに前年同期を上回ったものの、平成22年Ⅳ期は再びマイナスに転じた。

#### ② 繊維工業

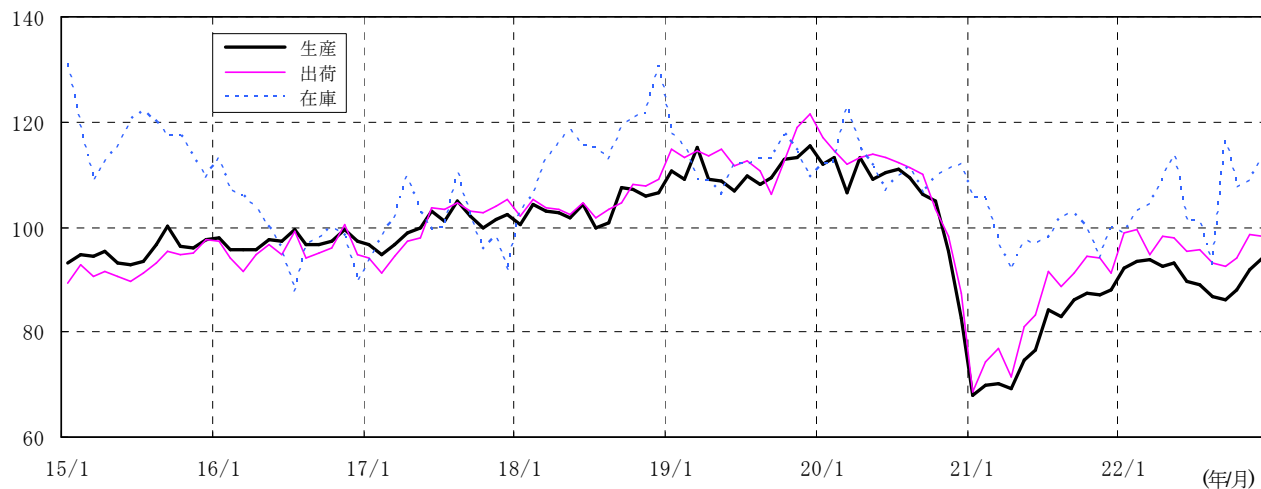
繊維工業は、55.2(前年比4.7%上昇)。綿織物などが低下したものの、化学合成繊維、綿糸などが上昇に寄与した。四半期ごとにみると、平成22年Ⅰ期は、平成16年Ⅱ期以来、23期ぶりに前年同期を上回った。平成22年Ⅱ期もプラスで推移したが、Ⅲ期以降はマイナスに転じた。

#### ③ その他製品工業

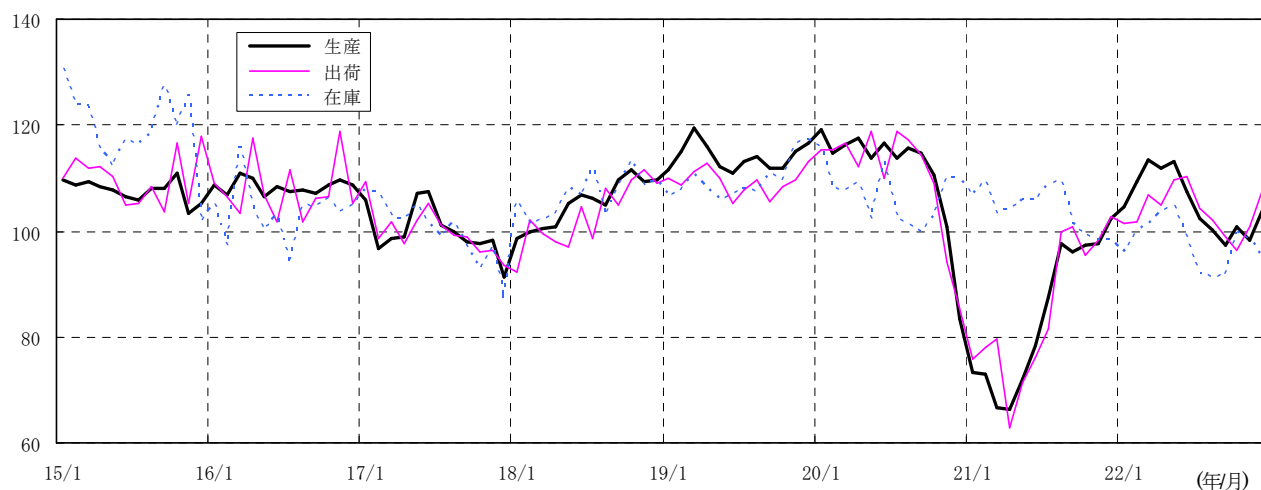
その他製品工業は、79.1(前年比▲0.3%低下)。ボールペンなどが上昇したものの、手縫針などが低下に寄与した。四半期ごとにみると、平成22年Ⅱ期、Ⅳ期は前年同期を上回ったが、Ⅰ期、Ⅲ期は前年同期を下回り、上昇と低下が交互した。

#### 4 主要業種別季節調整済指数の推移(平成17年平均=100)

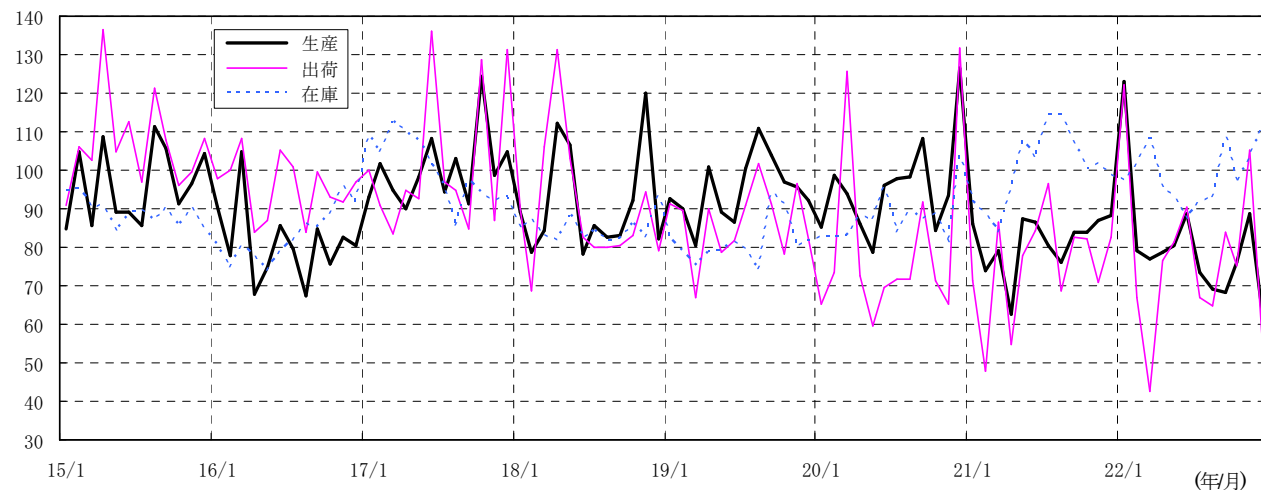
鋳工業 (付加価値額ウエイト=10000.0)



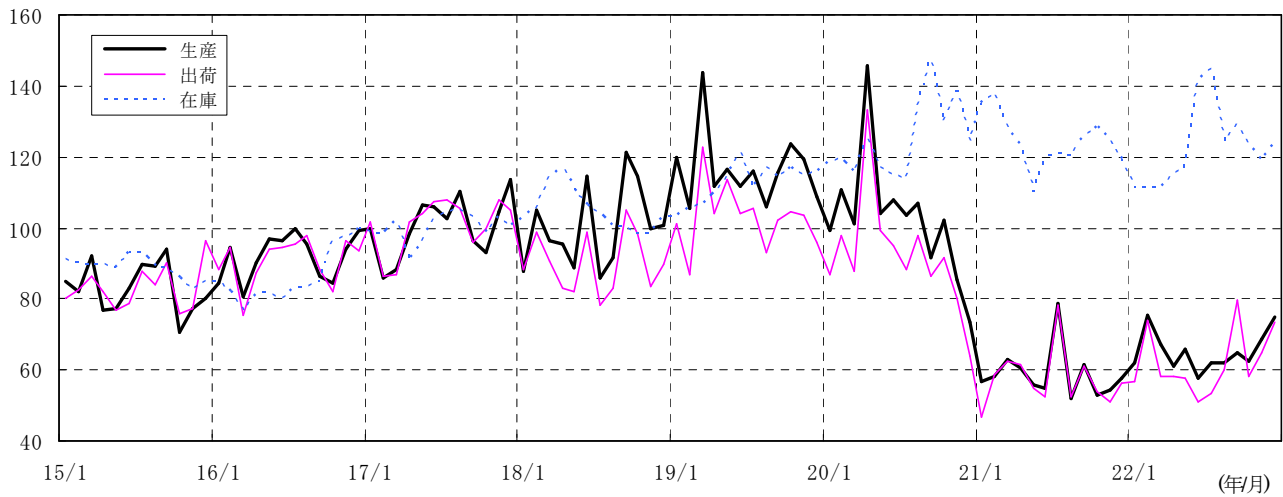
鉄鋼業 (付加価値額ウエイト=2230.6)



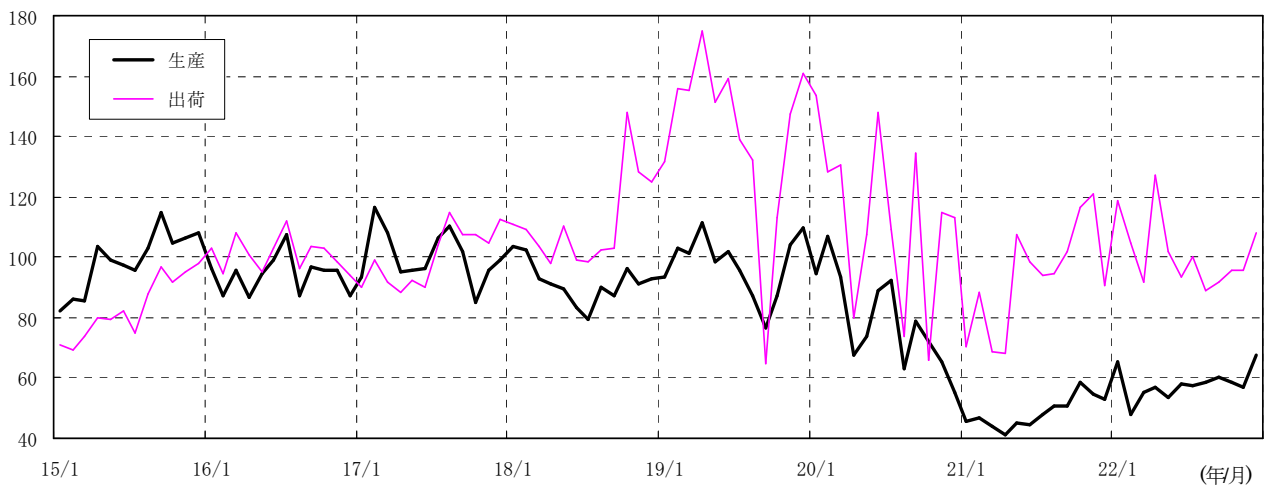
金属製品工業 (付加価値額ウエイト=475.0)



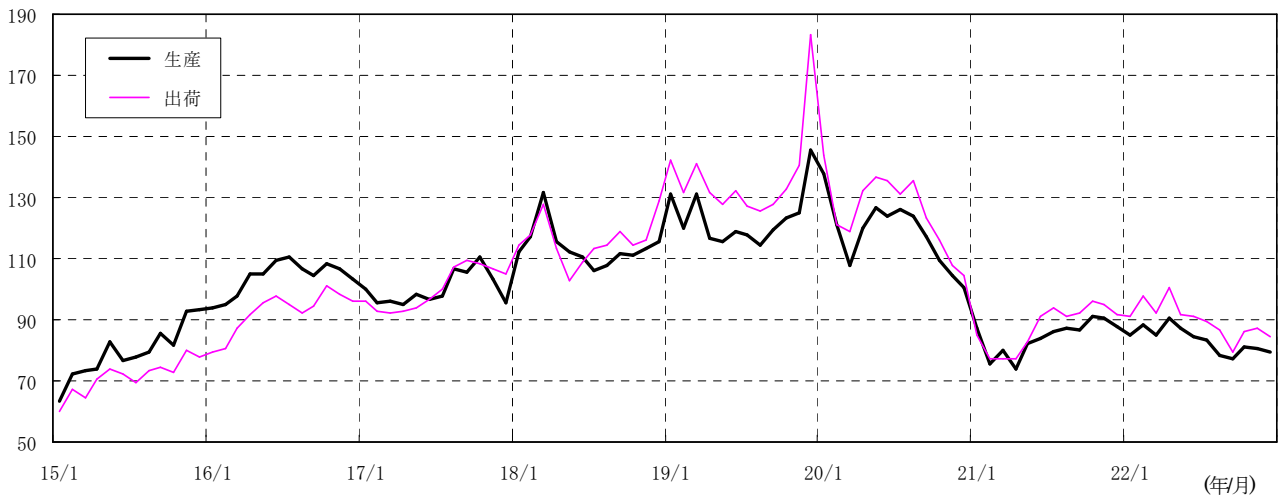
一般機械工業（付加価値額ウェイト=1489.5）



電気・情報通信機械工業（付加価値額ウェイト=721.2）

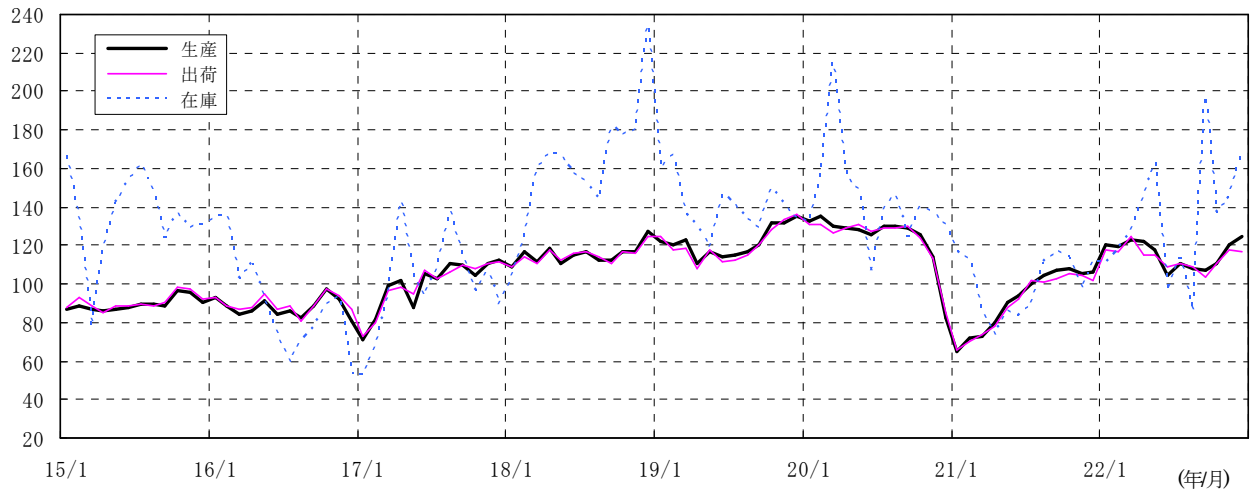


電子部品・デバイス工業（付加価値額ウェイト=917.7）

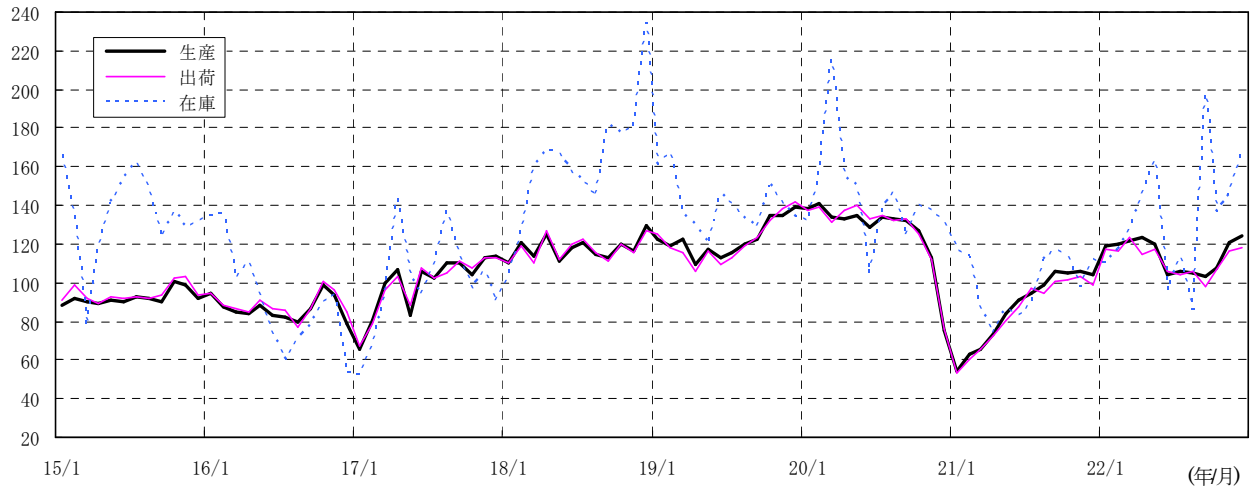




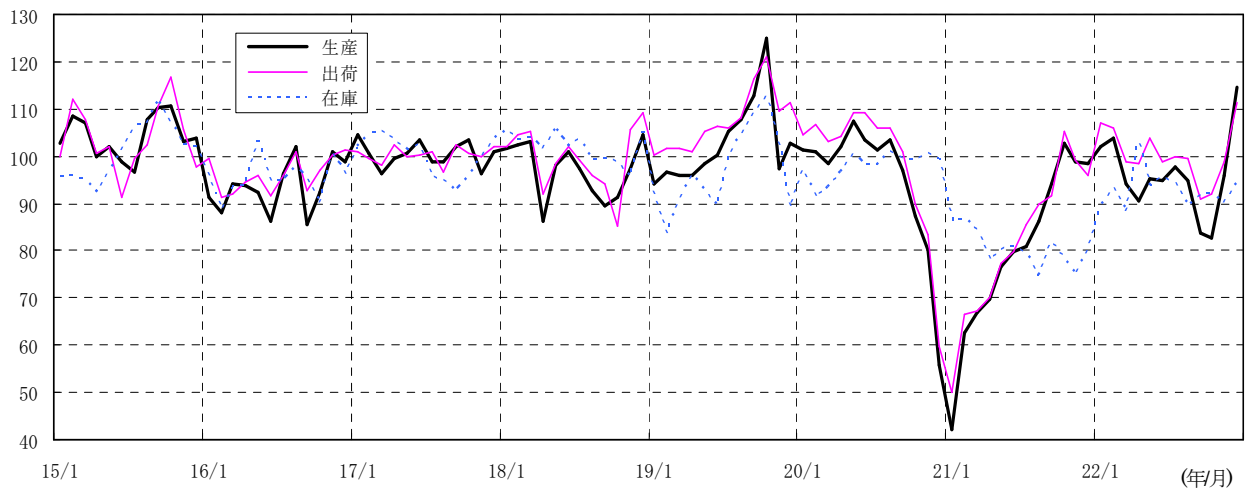
輸送機械工業（付加価値額<sub>1</sub>対=1485.3）



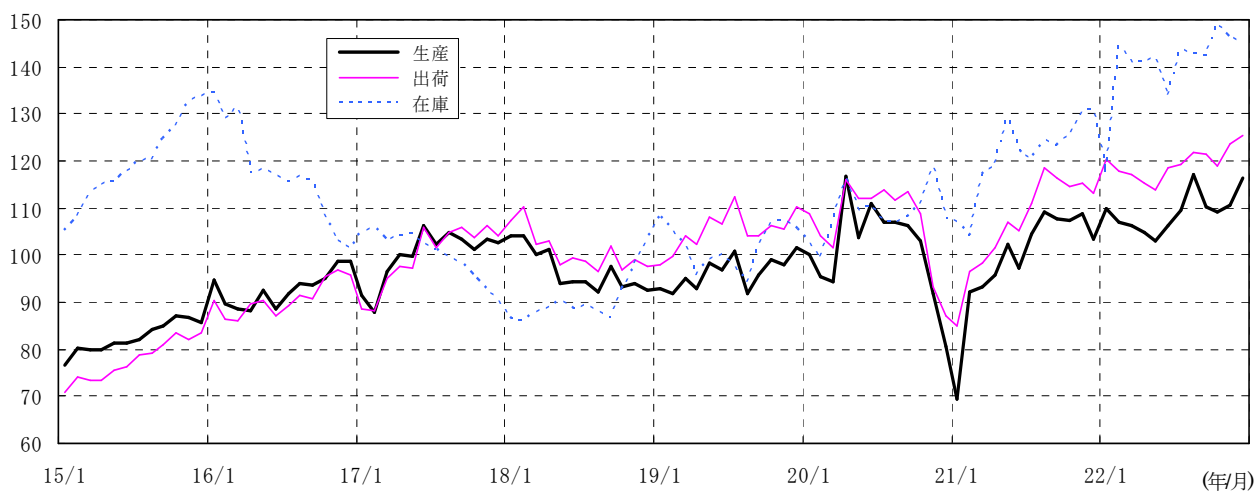
自動車部門（付加価値額<sub>1</sub>対=1231.2）



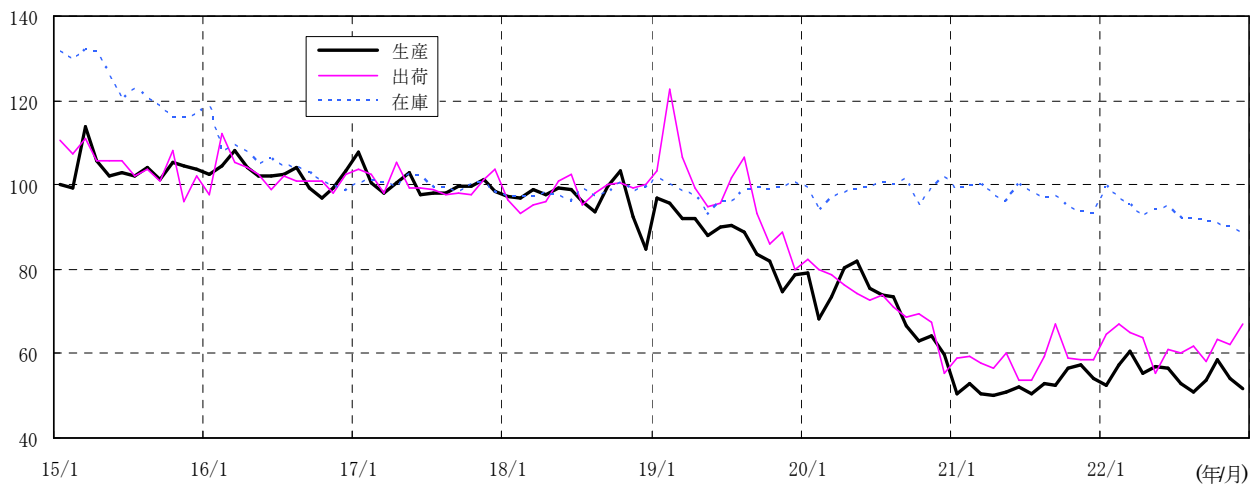
化学工業（付加価値額<sub>1</sub>対=408.5）



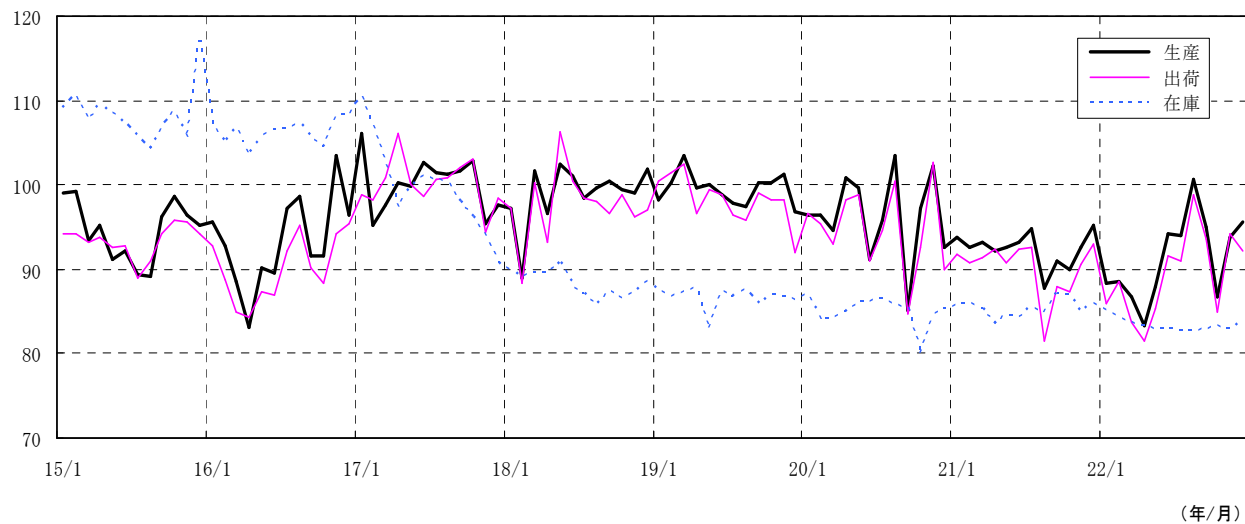
プラスチック製品工業（付加価値額ウエイト=474.8）



繊維工業（付加価値額ウエイト=220.4）

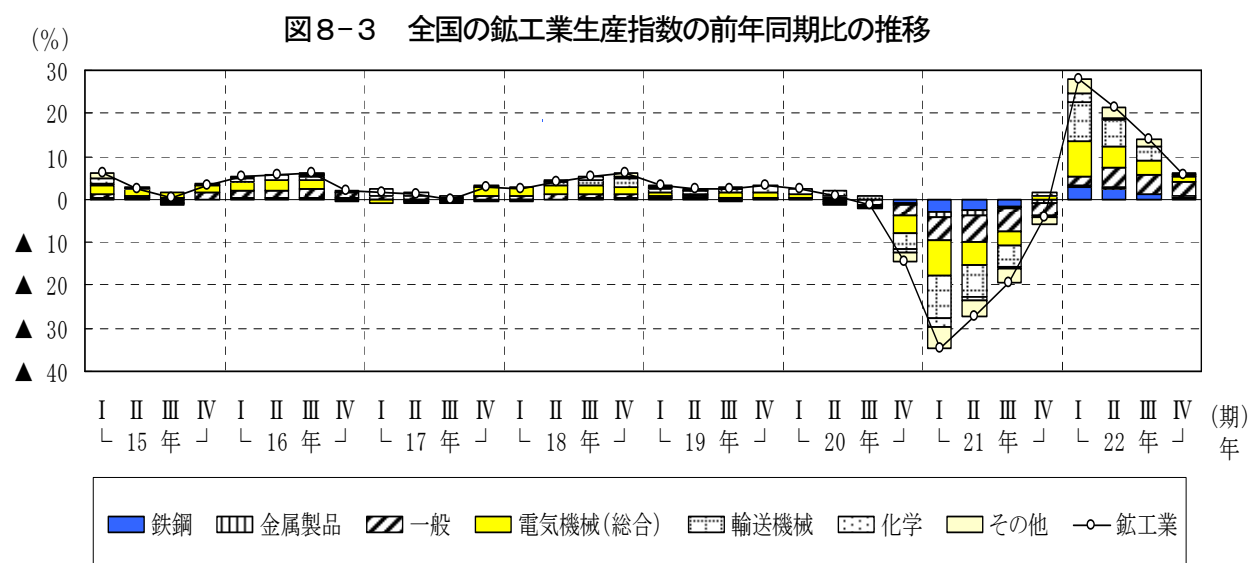
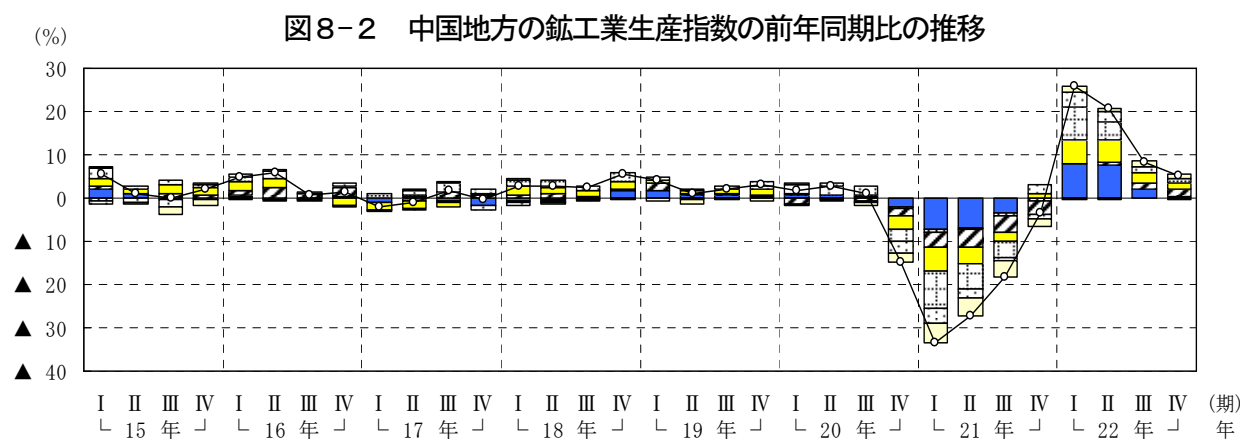
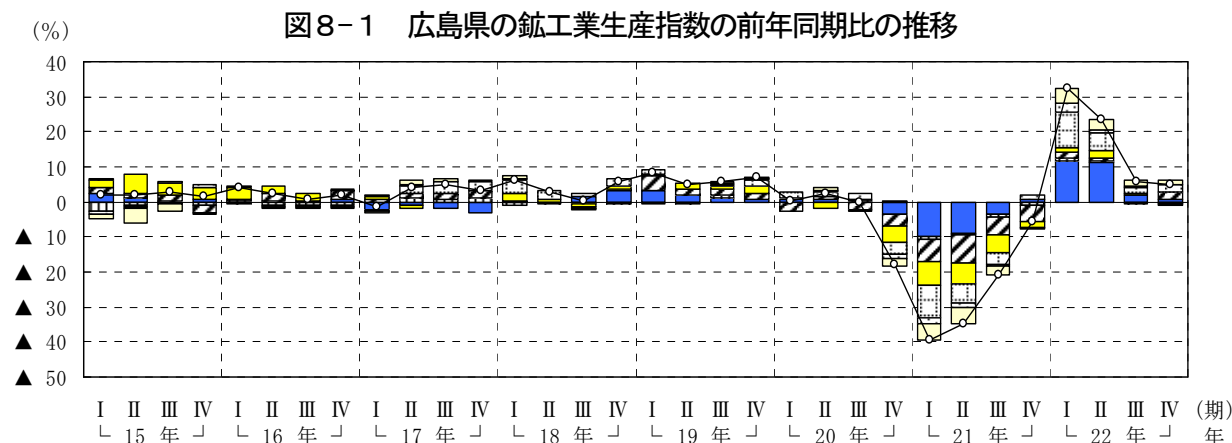


食料品・たばこ工業（付加価値額ウエイト=500.0）



## 5 広島県、中国地方及び全国における鋳工業生産指数の推移

平成 22 年を四半期ごとにみると(図 8), 広島県, 中国地方, 全国の全てで, I 期は前年の大幅な落ち込みからの反動で, 広島県で前年同期比 32.4%上昇, 中国地方で 25.7%上昇, 全国で 28.0%上昇と現行基準で大幅な上昇となった。II 期以降もプラスで推移した。



出所: 中国地方…「中国地域鋳工業生産動向」(経済産業省中国経済産業局) 全国…「鋳工業生産・出荷・在庫指数」(経済産業省)

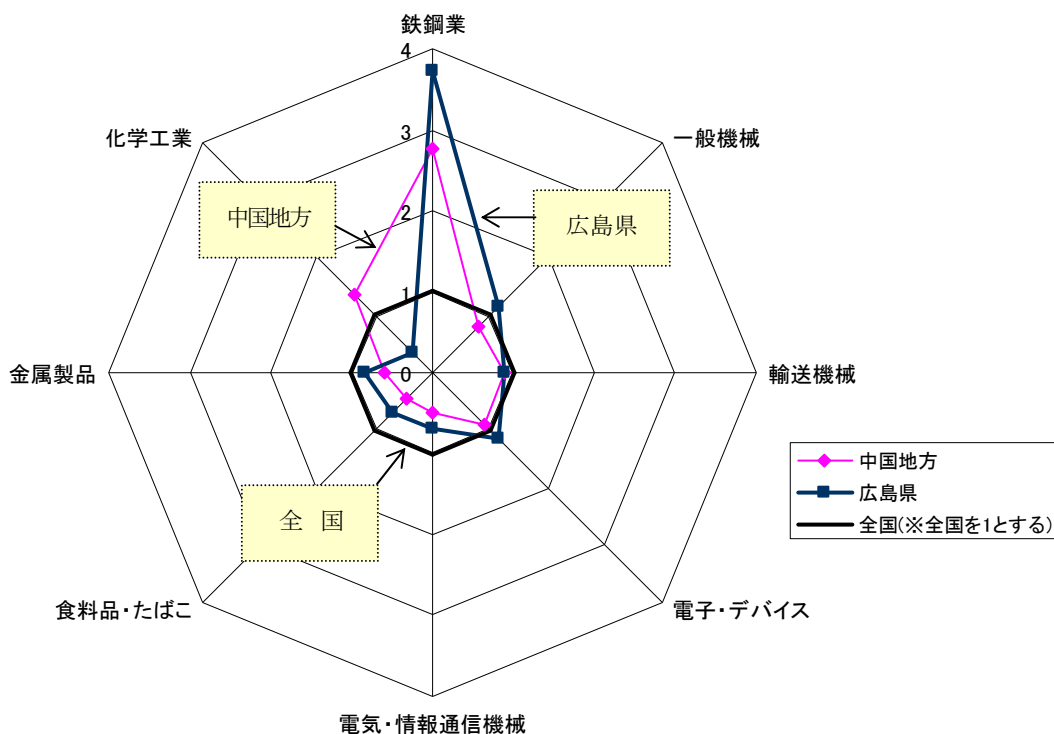
平成21年の鉱工業生産指数は、リーマン・ショックにより急低下したが、平成22年にはリーマン・ショック前の85%程度の水準まで回復した。

### 参考 鉱工業生産指数の付加価値額ウェイト(平成17年基準)について

特化係数<sup>(注)</sup>を用いて、広島県の産業構造が、全国や中国地方と比較してどの程度の偏りがあるかみてみると(図9)、全国との比較では、鉄鋼業への特化の度合いが、極めて大きい一方、化学工業への特化の度合いが小さい。中国地方との比較では、鉄鋼業と化学工業を除いて各業種の特化の度合いは、相対的に全国に近くなっている。

図9 主要業種における広島県及び中国地方の特化係数

(各特化係数は、平成17年基準の付加価値額ウェイトにより算出)



(注)特化係数 = 各地域の構成比 ÷ 全国の構成比

特化係数が1を超えると、その地域においてその業種の構成比が全国平均よりも相対的に高いことを表し、特化係数が1を下回ると、その地域においてその業種の構成比が全国平均よりも相対的に低いことを表す。